

## 市之川公民館だより 令和8年3月号 (No.627号)

〒793-0037 西条市市之川6678-1 市之川地区人口「1月末現在」  
 Tel・Fax (0897) 56-3300 人口 7人(男3人・女4人)  
 eメール ichinokawa-k@saijo-city.jp 世帯数 5世帯  
 ※ 西条市市之川公民館だよりで検索するとカラー版がご覧になれます。

### 3月 弥生 (やよい)

公民館の花  
菜の花



木の芽のふくらみや花のつぼみに春を感じる季節となりました。皆さんいかがお過ごしでしょうか。暖かくなつたとは言え、まだまだ寒い日もあります。体調を崩さぬよう十分お気をつけてお過ごしください。

ご存じのとおり、市之川公民館は令和8年3月末日をもって閉館いたします。これまで、皆さまに支えられ、多くの思い出を作ることができたことを心から感謝申し上げます。

### 《3月の行事予定》

日	曜	行事・時刻・場所
20	金	祝 春分の日
28	土	市之川公民館閉館式 10時～(予定)

### ○ 退任に際して (お礼)

このたび平成31年4月以来、7年にわたって務めてまいりました、市之川公民館長を退任することになりました。

在職中は地域・地域に所縁のある皆さま方に公私にわたり、格別のご指導を賜り、誠にありがとうございました。

また、私にとって祖父の生まれ故郷である市之川地区への思いは格別なものがあります。当面の間は社会福祉協議会市之川支部とともに継続して活動をして行きます。今後ともどうぞ変わらぬご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

市之川公民館長 矢野賢誠

### ※ 西条市郷土博物館にて

企画展 輝安鉱と市之川鉱山の歴史展【2月3日(火)～3月31日(火)】

西条市郷土博物館では2月3日から「輝安鉱と市之川鉱山の歴史展」が開催されております。市之川公民館所蔵の資料も展示しております。皆さんご覧になって下さい。



2月5日撮影



西条高校のコーナー



輝安鉱の結晶 2月13日撮影

### ※ 仙台市から (個人所蔵の輝安鉱 約14cm)



仙台市の方が市之川公民館が閉館すると聞き、来館されました。数十年前、愛媛に住んでおり、そのときに市之川へ何度か来られたそうです。懐かしいお話を聞かせて頂きました。左の写真はその際に持参された輝安鉱です。

### ※ 西条市社会福祉協議会市之川支部から



市之川公民館で使用しておりました、カラオケ設備。飯岡公民館(福寿会の新年会)でお披露目されました。なお、市之川カラオケ会のCDも飯岡公民館にて使用させて頂いております。

# ※ 京都市にて

1月17日（土）京都市にある高田クリスタルミュージアムへ訪問しました。



鈴木航太 君



高田 雅介 館長

堀 浩樹 氏

堀氏は2025年の鉱物鑑定検定で3級を合格。18日の「石を楽しむ新春交流会」で講演を行いました。演題は『鉱物でコミケに出席したらこうなった』です。若者が鉱物の世界へ入る突破口として、コミックマーケットは侮れません。とおっしゃっていました。

鈴木航太 君  
現在は小学6年生。5年生のときに「関川の変成岩 三波川変成帯について」を発表しています。鉱物鑑定検定の4級を持っているそうです。アマチュアの最高レベルが3級だそうです。凄い。因みに市之川公民館長の私は7級です。  
また、鈴木さんは令和7年6月に家族の方と市之川公民館に来館されております。

航太君からレポートを頂きました。59ページにわたるレポートです。3月末日までは市之川公民館で閲覧することができます。

レポートの全体写真



4ページ目

1月18日（日）石を楽しむ新春交流会にて  
益富地学会館の藤原上席主任研究員から四国地学巡検の報告。大井主任研究員からは市之川公民館の紹介がありました。全国の鉱物ファンにとって市之川は憧れの地。講演の後、多くの方から私に声をかけて頂きました。

藤原氏の講演 加茂川のかわらにて



大井氏の講演 市之川公民館の紹介



2026年2月10日

～毎月10日は人権を考える日～

出典：松山地方法務局・愛媛県人権擁護委員連合会主催「第44回全国中学生人権作文コンテスト」  
愛媛県大会 最優秀賞（松山地方法務局長賞）  
(松山地方法務局ホームページ)

## 受け入れること

西条市立小松中学校 2年 畑中 希心

僕は難聴だ。この障がい、悲しい出来事もたくさんあった。それでも今、みんなは難聴の僕を受け入れてくれている。

僕は、生まれつき音が聞こえない。生まれてすぐは乳を全然飲まず、死にかけてたらしい。ようやく乳を飲むようになった後、僕は耳が聞こえないのだと親は医者から聞かされた。母はショックで、とても悲しんだ。それでも、僕を幸せにしようと、一歳二か月の時に右耳、一歳六か月の時に左耳の手術をして、人工内耳というものを付けた。それで、音が聞こえるようになった。

とても不思議だった。なぜ、障がい者である僕を幸せにしようとしてくれるのか。でも、そのことを両親には聞けなかった。

そうして、僕は松山豊学校の幼稚部という難聴のための幼稚園に入学し、卒業後は地元の小学校に入学した。みんなと初めて出会った場所だ。

みんなは僕のことをとても不思議そうに見てきた。だけど、すぐに仲良くなった。けれど、友達と呼べるほど仲良しになれる人はいなかった。そして、何か月か過ぎると、一人、また一人と離れていき、僕はとうとう一人ぼっちになった。とても悲しかった。もっとみんなと話したい。けれど、話したら嫌われそうだという気持ちが強かった。だから、担任の先生と話したり、本を読んだりして過ごすことが多くなった。正直、寂しかった。ただ家では、オンラインゲームで楽しく過ごすことができた。僕の心の休けい所だった。

五年生になったある日、オンラインゲームのチャットで、「僕、実は難聴なんだ。」と思いついて言った。すると、「難聴は偉い。」と心ない言葉を投げられた。その後も「障がい者は要らない。」「とっとと消えて！」など、残酷な言葉をいくつも投げられた。そして、ついには仲が良いと思っていた人からも悲しい言葉を投げられ、いじめられた。とても辛くて、悔しかった。大切な人に裏切られ、たまらなかった。障がい者として生まれたことを僕は憎んだ。

最悪の気持ちしがばらく続いた。でも、ネットでいじめられたことや難聴という障がいについて、みんなに知ってもらいたい、だまってはいけないという気持ちの方が強くなっていった。それで勇気を出して、別のオンラインゲームで、再び「難聴だ。」と打ち明けた。すると、仲の良い人たちから、「どうして早く言ってくれなかったの。」となくさめられた。こんな自分を受け入れてくれる人がいると思ううれしかった。救われた思いがした。そして、もっと多くの人に難聴のことを知ってほしいと思うようになった。だから、小学校でも勇気を出してみんなと話すようにした。すると、そのうち友達と思える人ができ始めた。毎日の学校が楽しくなった。

僕は、小学校を卒業し、中学校に入学した。そして、他の小学校の生徒とも一緒になった。少年自然の家や体育大会などの行事で、心配事はいろいろあった。でも、みんなのサポートがあり、楽しく過ごしたり練習したりできた。みんなは僕のことを受け入れてくれていると安心している。

けれど、まだ不安が心の底にある。また、いじめられるのではないかと心配が、心の中から消えない。僕はおそろそ友達に聞いてみた。

「なぜ、僕を大切にしてくれるの？」と。

すると、  
「君は友達だから。難聴だったとしても、それ以外は同じだから。」

と答えてくれた。その言葉で、今まで僕に関わってくれた家族や大人たちが、なぜ可愛がってくれたり、怒ってくれたりしたのか、疑問が全て解けた気がした。僕は、自分を健常者とは別の、違う存在のように感じていたが、家族や大人は、同じ子どもとして、対等に見て接してくれていたのだ。心の底から感謝し一人涙を流した。

僕は今、普通に生活を送っている。家族がいて、友達もいる。だけど、難聴という他の人とは少し違う生活を送っている。不便なところはあるが、それ以外は何も変わらない。

人はみんな、それぞれ人権を持っている。人権は、この世の中で、人らしく幸せに生きる権利だ。健常者の人たち、難聴者の人たち、他に障がいのある人たち、人権はみんなに平等に与えられている。それなのに、少しの違いを理由に、受け入れなかったり、いじめたりして奪ってはいけない。障がいがあっても同じ人間なのだ。それぞれの個性を受け入れて認め合うことで、みんなが幸せになれる。もし困っている人がいたら、こう言いたい。「みんな同じ人間だ。だから、胸を張って前を向こう。」

僕は、これからも明るく幸せに生きていきたい。

西条市人権教育協議会 西条市人権擁護課